

## 郡山 龍代表取締役に聞く



郡山 龍代表取締役  
M2Mビジネスを事業の柱に育てたい」と話す郡山龍代表取締役にM2M事業の狙いなどを聞いた。

◆ ◆ ◆  
—12年から本格的にM2Mビジネスを立ち上げられ、今春からの評価用無線モジュールを出荷されてきましたが、市場の反応はいかがですか。

—M2Mビジネスを立ち上げられた、という考え方も当たりました。現時点は「つないだ後で、何をするか」という段階。モジュール組み込みを検討している機器メーカーに、

郡山 代表取締役  
アプリ開発ベンダーを紹介して

いる状況だ。

—モジュールで利益を得るわけではなく、機器をスマートやクラウドにつなげるスキームやクラウドサービスで利益を得るビジネスモデルであり、いえるのは「ホームネットワークやM2Mはうまくい

は、あらゆる機器でスマートフォンとの接続機能を実現する無線モジュールを600円台という低価格設定で量産を開始した。「M2M(マシン・ト・マシン)ビジネスを事業の柱に育てたい」と話す郡山龍代表取締役にM2M事業の狙いなどを聞いた。

無モジュール

## 年内100製品に採用

## さらに低価格製品開発

といふ考え方も当たりました。現時点は「つないだ後で、何をするか」という段階。モジュール組み込みを検討している機器

通り、年内に100製品で採用が決まる見通し。

—今月、量産用製品の出荷を開始され、7・99ドル(約630円)という価格設定をされました。

—近距離無線を使った機器とスマート連携なども登場していますが、郡山 代表 賴合している

スマートホンと連携できるという当社製品は受け入れられ、「機器とスマートホンをつなぐ」

として

きて

る。

どの機器に大幅な設計変更なく、ブルートゥースの無線モジュールを組み込み、スマートホンと連携できるという当社製品は受け入れられ、「機器とスマートホンをつなぐ」

として

きて

る。

郡山 代表 家電や玩具な

玩具や小モノ家電

向け採用製品が市

場に出回る。実際にスマートホン連携する機器が登場すれば、一気に火がつくこと期待している。

10月のCREATE Cでは、採用製品を五七つ紹介する。また、年末に

かない」というマ

イナシイメージ。



600円台という低価格を実現したブルートゥース対応モジュール。既存機器に接続するだけでスマートホン連携機能を実現できる。

例えばだが、現状のエクササイズアプリは、腕立て伏せの回数をユーザーにあえて画面をタッチさせる。そこでカウントする程度。スマートホンの機能だけを使つたエクササイズには限界がある。そういう意味でもアプリベンダーは、スマートホンアプリ連携する機器を強く求めている。連携する機器があれば、アプリベンダーは飛びつき市場は広がる。

当社としてはそうした状況で、機器接続認証の仕組みやセキュリティシステム